

平成26年6月11日
運輸安全委員会

重大インシデント調査に関する安全情報の提供について

運輸安全委員会は、本日、国土交通省航空局に対し、以下のとおり情報提供を行いました。

なお、当該事項が本重大インシデントにどのように関与したかについては、引き続き調査中です。

1 重大インシデントの概要

本田航空所属JA4000（セスナ式TU206G型、コンチネンタル式TSIO-520-M7型エンジン搭載）は、平成25年11月16日（土）、航空測量のため秋田県能代市の写真撮影現場に向かっていたところ、エンジン油圧が低下した後、11時43分頃、エンジンが停止したため、秋田県秋田市の旧秋田空港跡地に不時着した。

2 情報提供

(1) 重大インシデント発生後の機体調査において次の事項が判明した。

- ① エンジンの潤滑油量を測定する際に用いるオイルゲージを構成するオイルゲージハウジング・チューブのホースがエンジン本体側のチューブから外れていた。
- ② オイルゲージハウジング・チューブとエンジン本体側のチューブとをつなぐホースを締め付ける金具の位置がずれて締め付け帯がエンジン本体側へはみ出すとともに、ホースの接合部分が緩んでいた。

（別紙 参照）

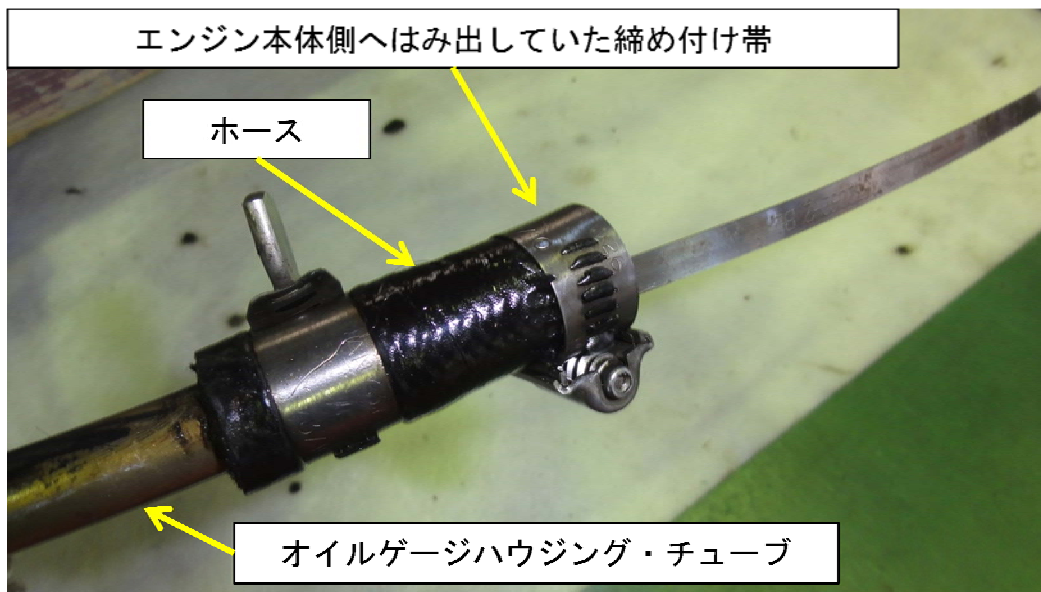
(2) エンジン製造会社において当該エンジンの分解検査を行ったところ次の事項が判明した。

- ① 重大インシデント発生後にオイルゲージハウジング付近を撮影した写真から、その周辺に潤滑油が飛散した痕跡が確認された。
- ② 同型エンジンのオイルゲージハウジング・チューブを取り外した状態で試運転を行った結果、取り付け部周辺に潤滑油の漏えいが見られた。

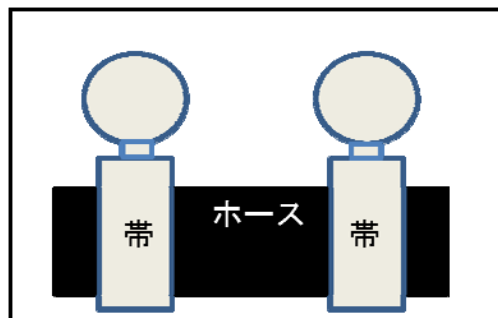
別紙



ホースがエンジン本体側のチューブから外れた部分の再現



ホース締め付け金具の状況



一般的な締め付け帯の位置